

青少年相談員だより



“平成30年度 茨城県青少年相談員連絡協議会 第3ブロック研修会” 那珂市で開催
(H31.1.26 撮影)

「まごころ」をもって

那珂市青少年相談員連絡協議会

会長 関 守

先日、「子どものSOSきこえていますか」と題する講演を拝聴した。

今時の学校の保健室では、家庭に頼れる大人がいないことがあまりにも多いため、まるで母親に甘える幼児のように養護教諭にまとりつく子ども多いと言っ。教室の指導では、父性的な関わりが多く、我慢する、頑張ることが求められるけれど、子どもたちにとってはストレスを感じ、その分どこかで息をぬいてバランスをとらないと壊れてしまう。そのため学校の保健室、養護教員の存在が大きくなっていると言っ。

今年に入り、幼児虐待、いじめ等が改めて報道されているが、誠意をもって事に当たれば、どんな物事でも、どんな人でも必ず動かせる力があるのではないのかと思われる。

地域の絆が希薄になったと言われる昨今、生活に迫られる家庭だと尚更、親が地域と繋がる余裕はなく、いうなれば「繋がり」の貧困が生じていると言っ。

青少年相談員の活動は、地域と人の繋がりを求めて、家庭の繋がりを増幅する活動にベクトルを切り替えるべきだと感じる。この上なく誠実に「まごころ」をもって事に当たり、諦めずに行えば、必ず目に見えるしがあらわれることを願わずにはられない。

中高生と語る会

毎年、夏休み期間を利用して開催しているこの会は、中学校区ごとに中・高校生と大人（教師や保護者・地域住民等）が一堂に会し、学校生活や家庭生活・大人社会等について熱い思いを交わす場となっています。

今号では、その中から、3つの中学校区の様子をお知らせします。

ばら野学園第一中学校区

目的

「中学生、高校生になって、今考えていること」をテーマに、学生生活、家庭生活、自分の将来、友達や教師、社会に対して、どう思っているのか、話し合いを通して、互いに理解を深め、今後の青少年活動の一助とする。

場所 ばら野学園那珂市立第一中学校 会議室

日時

8月6日 9時30分より

参加者

中学生12名、高校生8名、相談員11名、第一中学校長、同校生徒指導主事

以上33名にて、4班編制で実施しました。

●進路について

中学生から

○親と祖父母に、自立安定した職業に就くように言われている。○美容師になりたいが、親は看護師にと言っている。○学校の事務職 ○理学療法士

○保育士

高校生から

○料理関係（栄養士）

○テニスの強い実業団

●今楽しいこと

中学生から

○読書（ファンタジー系）

○友達との雑談

○IT関係 ○養護教諭

○部活をしている時

高校生から
○部活で運動、ストレスを発散できる。
○休日スマホでゲーム
心配なこと
中学生から

○高校に入ってから
の友人作り ○親、友達
には相談しにくい。兄
や姉に相談している。

高校生から

○ライン上で、相手が見えない、コミュニケーションがとれない。
間に注意している。

●その他

○高校受験は自分に勝つことが大切。○中2から
高校受験に取り組めば理想的。○行きたい高校を
目指してほしい。○大学受験は2、3年後受験の
方法が変化するので多少心配。○中学生は、18歳
で大人扱いになることに大変不安を感じている。
○勉強、部活に忙しく、スマホを使っている時間
もない。（高校生）○災害発生時のニュースを見て、
ぜひボランティアの一人として参加したい。（中学
生）○いじめについては、全員ないとのこと。

○スマホの依存症、使用時



青遙学園第二中学校区

7月21日、二中パソコン室で、中学生21名と教員・
まちづくり委員会・青少年相談員の総勢37名が集い、
「なぜ、今読書が必要なのか」について「中学生と語
る会」を開催しました。昨年の「スマホ・携帯の安全
な使い方」をテーマとした「語る会」で、長時間使用
によるネット依存や、メールなどによる友人とのトラ
ブルといったデメリットが指摘されたことから、今年
は、これらに最も効果が期待されている「読書」を取
り上げました。

まず、二中の加藤教諭から、『世界夢ケーキ宣言！』

『夢が人生をつくる』『福の神になった少年』など、
中高生にぜひ、今読んでほしい12冊について、それ
ぞれの内容説明がありました。

そして、読書により国語力や想像力をつけ、理解力
や速読力なども身に付くことができる。さらに、スマ
ホに頼りすぎず、人の気持ちを考えることができるよ
うになることから、コミュニケーション能力の向上と
「感動すること」による貴重な経験も期待できる、と
の話がありました。その後3つの分科会で意見交換を
行いました。

分科会では・・・

中学生は

○人との出会いは人間を変える。必要とされていない
人はいない、必要としてくれる人がいるはず。寄り
添ってくれる人の大切さをこれまでの読書で学ん
だ。

○本を読んで、その中から学べることもあると思う。
○たくさん本を読み視野を広げること、将来に役
立つと思う。

高校生は

○学びや人との関わりなど、豊かな人間になるために
読書は必要だと思う。

○心温まる本を通して人として正しいこと、生きるこ
との難しさ、考え方などをぜひ学びたい。

といった意見がありました。

なお、数学者の藤原正

彦さんは、平成30年4月

27日の茨城新聞『週刊い

ばらき』でも新聞」にお

いて、「本を読めば知識が

付き、体験を重ねれば、

知識が教養に格上げされ

る。教養は『大局観』、物

事を大きな所から見る力

を得るのに必要だ」と読

書の意義を述べられてい

ます。



わかすぎ学園 第四中学校区

7月27日「ひだまり」に於いて、中学生16名・保護者5名・教員3名・来賓4名・青少年相談員8名により3班に分かれて行ないました。

(1) 地域社会と中学生との関わりについて

中学生から

○「何でもやりたい。やってみよう。」という性格のため、ボランティア活動をしようと思った。友達を誘っても断られていたが、興味をもったら、先ずはやってみたらいいと思う。

○大助祭りの太鼓の練習に行った。祭りのない年でも毎年練習をしていた。大人の人と話すことが多かった。

○中学生は朝の挨拶を行なっているが、高校生は地域との関わりが少なくなっていると思う。

高校生から

○中学生の時に、ボランティア活動(読み聞かせ)をしていました。小さい子の反応がとても良かった。那珂市には「高校生会」があるが、那珂市以外から通う7名が中心となっている。地元の高校生も加わって組織づくりをしたい。

青少年相談員からのアドバイス

○ボランティア活動は「人助け」よりも「仲間づくり」活動を通して一つの行事を達成させるのになんかに大変か、仲間と話すことで前向きな気持ちになれる。長く続けられるのも仲間のおかげ。

○幼い頃の思い出を忘れないで欲しい。一時期は地域から離れても大人になって地域に戻ってきて欲しい。そして、地域にかかわって発展させて欲しい。

(2) 夏休みの過ごし方について(受験生として)

中学生から

○夏休み中は、一日5〜8時間は勉強したい。

○進みたい学校に目標を合わせて、不得意な教科を中心に勉強したい。

○5教科の「整理と対策」のテキストを中心に、二回繰り返し勉強し分からない所を再度復習する。

○9年生になると、受験のスイッチが入る。

高校生から

○塾派は「家では気が散る」「分らない所を先生が教えてくれる」。塾に行かない派は「お金の無駄遣い」「自分でやればできる」。

○夏休みは「ケータイ・スマホ依存症」の時期でどう乗り切るかが課題です。

○家ではいつでもできるが、遅くとも22〜23時ぐらいまでに行っている。

○LINE(ライン)は、話せなかった人とも会話ができる。LINEを通して仲良くなれるきっかけができる。また、学校を休んだ時などに質問や連絡ができてとても便利。

○LINEのやり取りで時間が掛かるので、グループで時間を決める。また、断る勇気も必要。

○SNSの利用においては、「知らない人はブロックする」「迷惑メールは開かない」等、自分で気を付けている。



青少年相談員研修会

緑桜学園 第三中学校区 青少年相談員

6月28日、「総合センターらぼーる」に於いて、県保健福祉部青少年指導員 村上朝雄先生を講師に迎え、「青少年相談員として活動するにあたっての心構え」というテーマのもと研修会が開催されました。

前半は村上先生から講話を頂き、後半は分科会形式で話し合いをもちました。

〈講話〉

○青少年を取り巻く環境が急変し、様々な問題が生じている。地域とともに青少年の健全育成に取り組んでいきたい。

○巡回活動中、不審な青少年を見かけた場合、安心させるような接し方が大切。

○相談の依頼を受けた場合、依頼者が自分で考え、解決方法を見出せるような支援が必要。

○巡回活動中に得た青少年の情報は、必要に応じて市、学校、警察等へも連絡する。

○「青少年の健全育成に協力する店」への訪問と情報交換に努める。

○インターネットは約束を決めて使わせることは勿論、フィルタリングの利用も大切。

〈分科会〉

○店等からの青少年の問題行動の相談について
・個々の事案について、具体的に話をよく聞く。
・今後も含めて、何に困っているか等を話し合う。
・関係機関(学校、警察等)への届け出の確認。
・今後のパトロールの強化。

○いじめ・不登校について
・いじめ及び不登校は、増加の傾向にある。
・小中学生のいじめの内容として、冷やかしかからかい、悪口、嫌なことを言われる等が多い。
・保護者、学校、関係機関との連携を図る。
・登下校の安全について

・保護者、交通安全協会等と連携し、より安全を図っていきたい。
・危険箇所等の情報は、学校に速やかに連絡する。

研修会を終えて、今後も、地域の一員として子どもの健全育成に取り組んでいこうと思いました。



移動研修会

白鳥学園 瓜連中学校校区 青少年相談員

《那須学園を見学して》

家族の問題、本人の問題行動等、様々な課題をかかえている青少年を、社会で自立できるように支援している施設を見学して参りました。

第一印象は、玄関に掲げられた「朝は希望に起き、昼は努力に生き、夜は感謝に眠る」という言葉でした。それは、「二日一日を大切に生きよう」という子どもたちへのメッセージ、そして見学者への教え。

会議室には、学園の歌の中に、「この園は、我らみんなの心の港」と示されてありました。本来なら、心の支えや心の休まる場所は家族だと思われます。しかし、子どもたちにとっては、今も、そして卒園してからも、学園が、「心の港」となっているようでした。そのために、全職員が、「親子の関係」という共通認識をもって、子どもたちに精一杯かかわっているとのことでした。

子どもたちが生活している寮では、次のような言葉が目にとまりました。

あなたがそこにいるだけで、
その場の雰囲気明るくなる。
あなたがそこにいるだけで、
みんなの心が安らぐ。
そんなあなたに私もなりたい。



これは、子どもたちだけではなく、私たち大人にも求められていることだと感じました。
見学を終えて、当たり前だと思っていた日常を見直すこと、恵まれている「いま」を大切に、青少年の健全育成のために、積極的に活動していきたいと認識を新たにしました。

第3ブロック研修会

白鳥学園 瓜連中学校校区 青少年相談員

この図柄は、1月26日に「総合センターらぼーる」で開催されました「茨城県青少年相談員連絡協議会第3ブロック研修会」における、県協議会会長の山口恒巳様の言葉を絵にしたものです。山口会長は、「子どもたちにとっての居場所づくりが重要」と強調され、「ぼく、ママのスマホになりたい」という子どもたちの声をご紹介されました。



これから、ますます複雑多様化する社会の中で、「子どもたちへの声かけ・相談活動」の大切さ、さらに、「子どもたちの規範意識の向上に努めてほしい」とも述べられました。
講演会では、スクールカウンセラーの先生から、子どもたちの「不安」を理解することが大切。不安とは、「寂しい、悲しい、くやしい」などの気持ちのこと。イライラしたり、怒りっぽいたときには、言動の裏側に、子どもなりの「不安」があるので、その気持ちをわか

ってあげることが重要と話されました。
青少年相談員にとって、子どもたちを取り巻く諸問題についての知識を身につけ、対応策などを学ぶ貴重な研修となりました。
次回は、小美玉市で開催されます。



平成30年度 事業報告

通年	担当地区定期巡回（夜間含め、年15回程度） 児童生徒へのあいさつ声かけ 那珂市民会議等の事業への協力
4月	年度初めの学校へのあいさつ
5月	ステーションパトロール
6月	研修会
7月	「青少年の健全育成に協力する店」の登録推進活動 中高生と語る会
8月	夏休み繁華街パトロール 青少年健全育成のための懇談会 ひまわりフェスティバルパトロール
10月	移動研修会 第48回茨城県青少年相談員研修大会への参加
11月	ステーションパトロール
12月	冬休み繁華街パトロール
1月	「青少年の健全育成に協力する店」への新年あいさつ 茨城県青少年相談員連絡協議会第3ブロック研修会
3月	中学校卒業式パトロール

【発行人】

那珂市青少年相談員連絡協議会
会長 関守